

## NS鉄道がインターモーダル停止 ■米鉄道労使交渉、大統領が直接スト回避要請

米国で鉄道ストライキ発生の可能性が徐々に高まってきたことを受け、ノーフォーク・サザン（NS）鉄道は13日、全てのインターモーダル施設において実入りおよび空コンテナの搬入を停止すると発表した。日本時間13日現在で、他の鉄道会社で同様の方針は確認されていないが、今後同じ対応が広まればコンテナ物流に大きな影響が出る恐れがある。ホワイトハウスの発表によると、バイデン大統領は12日、鉄道会社および労働組合の双方に直接電話し、ストを回避するよう要請した。

NS鉄道は13日、スト発生に備えた緊急対応策を発表し、同社が運営する全てのインターモーダル施設で、実入りおよび空コンテナの搬入を停

止すると発表した。コンテナターミナルのオンドックルールおよび民間のインターモーダルターミナル発の貨物は受け付けないとしている。一方、貨物搬出については、新たな発表があるまでは通常通り受け付ける方針だ。

13日現在で、他の主要鉄道会社では、危険物など一部貨物の引き受け制限のみで、インターモーダル施設の受け入れ停止措置までには至っていない。ただ船社関係者は、「ストの可能性が高まってきたと考えており、他の鉄道会社でも同様の措置が取られれば影響が大きい」と指摘。インターモーダル施設が貨物受け入れを停止すれば、鉄道接続貨物はターミナル内で滞留せざるを得ず、港湾処理能力をさらにひっ迫させる恐れがあ

る。既に一部船社では、米国発アジア向けの西航では危険物やリーファー貨物の受託をストップしている。

労働組合と交渉を行っている鉄道会社団体のNCCC（National Carriers' Conference Committee）は13日、新たに労組1団体と新労働協約で暫定合意したと発表しただけ残るBLETとSMART-TDの2団体がなお反対姿勢を崩していない。

ホワイトハウスでは13日、カーリーヌ・ジャン＝ピエール報道官が「ストの可能性に備え、トラックや航空貨物など他の輸送モードの事業者や荷主などに対応策を協議している」と明らかにした。同時に前日、バイデン大統領が直接、鉄道会社と労組の双方に電話をかけてスト回避と交渉継続を要請したことを明らかにし、両者の交渉を引き続きサポートしていく方針としている。